

さつまの青梅 消費者のもとへ

6月2日、宮之城町佐志のJAさつま野菜集出荷所で青梅出荷式が開催されました。

当日は朝早くから収穫されたばかりの青梅が集出荷所に持ち込まれ、職員が忙しそうに西郷隆盛の認証マークが貼られた10キロ箱に詰めていました。

出荷式で、市山正弘梅振興会長は「今年も出荷の時期となりました。今年は強い風と害虫などの発生があり収穫量は減少するが、品質はどこにも負けない、いい物ができました。今後安全にたくさん出荷したい。」とあいさつしました。

青梅は6月3日から約2週間、今年は2L玉、3L玉など大粒の梅を中心に、主に生協や農協系のスーパー、東京方面の市場に出荷されています。



出荷式でテープカットをおこなう関係者

消費者と生産者の相互交流を深める 南高梅収穫体験&交流会

生協コープかごしまの利用者などに一足早い収穫体験と圃場視察・交流会を体験してもらい、消費者との交流を深める交流会が、5月25日開催されました。当日は85名が参加。風雨の強い悪天候の中でしたが、みんなで黒鳥の川上富行さんの梅園に移動し、ビニール袋いっぱい収穫を楽しみました。その後観音滝公園交流センターに移り、鹿児島女子短期大学福司山工ツ子教授による梅の効能などについての講話がおこなわれました。

鹿児島市から参加したという日高敏朗さんは「家族3名で来ました。子どもは初めて梅を収穫することができて楽しかったようです。次回も是非参加したい。」と話していました。



大きい梅を選んで収穫

びっぴ箱



〔作文〕

歴史文化館への出発

中津川小六年 半崎慶彦君
バスに乗り、待っていた修学旅行の市内めぐり、バスから降りるとそこは、宮崎の知らない町でした。路線バスに乗り歴史文化館へ向かいました。

十五分ぐらいで着き、帰りのバスの時刻表を見てから、歴史文化館に向かいました。途中、はすが池にいた鳥を見ました。一羽動かない鳥がいたので、模型かと思いつくと、「バサ、バサ、バサ。」と池に降りて行きました。ぼくたちはびっくりしました。「写真撮ればよかった。」とみんなで話しました。

歴史館の前に、教頭先生が待っていてくださいました。そして歴史館で写真を撮ってもらいました。中に入り、受付をして、その後見学しました。まず最初に見たのは、大仏でした。小さい物でしたが、とてもすごかったです。ほかに縄文時代などの様子を見ま

した。見ていくと、石包丁、矢じりなどがありました。あと、初めて縄文土器をさわりました。とってもうれしいでした。ほかに、豪族のことなども書いてありました。ぼくが驚いたものは、昔の人の骨でした。ほかに、まがたまもあり、社会で学習した縄文時代や平安時代などのことがいろいろと分かりました。

ちよつと時間がなかったので全部は見なかったけど、外には図書館や高床倉庫、たて穴住居などがありました。お弁当を食べて次の学習館へ向かいました。縄文土器、まがたま、石包丁がとってもすごかったです。また、宮崎に行くことがあったら、歴史館に行ってみたいです。

10年後の自分へ

中津川小五年 山下真美さん
私は、10年後保育士になっていると思います。やさしくて、きれいな、保育士にたぶんなっていると思います。子どもたちと、たくさん遊んで2人の子どもを産んでいるといいです。